

Vol.1 所属内供覧	開始 年 月 日
	終了 年 月 日

コンプラ通信

平成27年8月 Vol.1

コンプラ通信を発行します！

私たち仙台市役所では、市政に対する市民の信頼をより強固なものとしていくことを目的に、コンプライアンス推進のための取り組みを進めています。

日頃の仕事の中で一人ひとりがコンプライアンスについて考えるきっかけとしていただくため、また、職場の朝礼等の中で話題にさせていただくために、「コンプラ通信」を発行していきます。ぜひご活用ください！

皆さんからのリクエストに応じて参考となる情報なども掲載していきたいと思っております。ご意見お待ちしております！

コンプライアンス推進担当からのお願い

「コンプラ通信」は、概ね月に1回発行していく予定です。各局区等の主管課を通じて、各所属にデータを送信しますので、各所属で印刷し、全職員に供覧してください。その際、他の資料と一緒にせず、単独で供覧するようお願いいたします。供覧が終わったら、所属職員がいつでも見られるよう、保管をしてください。（データはEbientキャビネットにも掲載します。）

「コンプライアンス」とは？

一般的には「法令遵守」と訳されますが、法令だけでなく、組織内のルールを守ることや、高い倫理観を持つこと、そして社会的要請に応えていくことも含まれるものと理解されています。

私たち仙台市職員にとってのコンプライアンスとは、「法令や社会のルールを守っていくことのみならず、市民のニーズや社会の要請に応えていくこと」です。（行動規範集P1）

仙台市コンプライアンス行動規範集を策定しました

7月に、職員が公務員として守るべきルールや心構えをまとめた「仙台市コンプライアンス行動規範集」を策定しました。皆さんのお手もとに届きましたか？

この行動規範集は、職員意識調査の結果も踏まえ、仙台市コンプライアンス推進委員会で5回にわたり議論し、策定したものです。

日頃から繰り返し見ていただいたり、職場の朝礼やミーティングで話し合いながら、信頼される市役所づくりのためにはどのような行動をとるべきか考えて、一丸となって取り組んでいきましょう！

裏面では、行動規範集の周知や活用の事例について、ご紹介します！



仙台市コンプライアンス推進委員会

推進委員会の資料や議事録は市HPに掲載しています。
http://www.city.sendai.jp/fuzoku/1217509_2699.html
ぜひご覧ください。

各職場での取組み事例のご紹介

宮城野区役所、財政局税務部・納税部では、行動規範集の周知のために、携帯用カードや、掲示用の行動規範集抜粋版を作成しました。

健康福祉局、総務局でも、行動規範集の抜粋版を、各職場のコピー機の前などの、職員の目に入りやすい場所に掲示しています。

日頃から見られるようにすることで、意識づけにつながっています。



宮城野区のカード



健康福祉局の掲示

ご紹介した事例のデータは、Ebientキャビネット(総務局人事課フォルダ内)に掲載しています。各職場での取組みにご活用ください。

宮城野区役所様、財政局税務部・納税部様、健康福祉局様、ご協力いただきありがとうございました！

これからも各職場の取組みを紹介しますので、情報をお寄せください。

職場に伺ってお話をさせていただきました

行動規範集の配布後、コンプライアンス推進担当課長が各局区等の課長会を訪問して、行動規範集の概要や各職場での活用方法について説明を行っています。

また、ご依頼に応じて、消防局のポスト係長以上を対象とした研修や、経済局東部農業復興室の朝礼で行動規範集に関する説明を行いました。

その中で「参考になる具体的な事例を提供してほしい」という声が多数ありました。

今後、コンプラ通信で紹介していきたいと思えます。

これからもご希望により職場へ伺いお話をさせていただきますので、ご用命ください。



経済局東部農業復興室の朝礼

トップセミナーを実施しました

職場づくりで特に重要なのは、部下を持つ職員の意識改革や積極的な行動です(行動規範集P3)。そこで、推進委員会委員でありフィデアホールディングス(株) 代表執行役社長の里村正治氏を講師として、市長、副市長、事業管理者、局・区長を対象とした「トップセミナー」を、7月27日に開催しました。お話いただいた内容について、一部ですがご紹介します。



講師の里村正治氏(市長の向かって左側)

注目

- ◇ 仙台市のコンプライアンスの定義は、**広義で、能動的**であることが特徴。
- ◇ コンプライアンスの根本となる分かりやすい考え方は、「**恥じることはしない**」「**お天道さまが見ている**」「**李下に冠を正さず**」。
- ◇ **行動規範集の策定は、あくまで「出発点」**。風化させることなく、繰り返し行動規範集を活用し、コンプライアンス意識の醸成につなげてほしい。例えば、職場の朝礼や研修等の中で週に1回、一部分ずつ読み合わせを行うなど、**日頃から活用することが大事**。
- ◇ **コンプライアンス意識を浸透させるのは部下を持つ職員の責務**。上から目線ではなく、「**組織全体を見渡そう**」「**日頃からコミュニケーションを図ろう**」「**相談される人になろう**」という心構えを持ってほしい。
- ◇ **上司はポジティブな運営を心がけ、部下の努力や挑戦を褒めて、やる気を引き出そう**。
- ◇ **悪い情報ほど迅速に報告させる必要がある**。そのためには、**上司は部下から悪い報告があった時に、怒らずに話を聞くようにすること**。報告が早いほど対応の時間がとれる。

最後に奥山市長から「これがスタート地点だということをしっかりと受け止め、お話をもとに、行動規範集が組織に根付くよう取り組んでいきたい。」と感想が述べられました。

トップセミナーの資料・内容は、Ebientキャビネットに掲載しています。ぜひご覧ください。